

明星大学地域交流センター Newsletter

Vol.7 (2021/3/1 発行)

Contents

1. 大学による地域貢献
2. 学友会活動
3. 勤労奨学生レポート
『私とボランティア』
『勤労奨学生になって』
4. オンラインでの
地域交流・貢献活動
5. お知らせ

ご挨拶

地域交流センター ユニットリーダー 御厨まり子

2020年度は、新型コロナウイルス感染症により地域連携を通じた活動が中止・延期するという、今まで経験したことのない状況下となりました。例年とは異なりますが、活動を行えたことをNewsletterにまとめ発行することといたしました。

本学では建学以来の地域に根差した教育方針に基づき、日野市や八王子市など近隣5自治体との包括連携協定を締結し、地域の抱える課題解決に向けた協働、生涯教育の促進、人的資源の提供等を進めております。地域連携を通じた活動は、本学が受ける恩恵も計り知れないものがあります。今後も、当センターから地域交流活動状況の情報発信を積極的に行いながら、学内外の皆さまに、より一層のご理解・ご協力を頂ければ幸いです。

1 大学による地域貢献

◆【建築学部】「令和2年度・斜面安定問題の考え方と解析手法に関するゼミナール」を実施しました (9/24～2/18 全10回 建築学科矢島寿一教授)

昨年度、日野市と明星大学は連携事業として、日野市の若手職員を対象に、『斜面安定問題の考え方と解析手法に関するゼミナール』を、斜面安定問題に特化した土の試験と斜面安定の考え方と解析手法について簡単な講義と実験・演習を主体に全12回で開催しました。受講した職員の方々からは、斜面崩壊に関する考え方・解析手法もある程度習得できたと評価を頂いています。

そこで、今年度も引き続き同じ内容のゼミナールを開講することとなりました。新型コロナウイルス感染防止のため、規模は縮小しましたが、

- ①土の強さの指標：粘着力(c)と内部摩擦角(ϕ)を理解する。
- ②土の強さの法則：有効応力の原理を理解し、降雨による有効応力の変化を理解する。
- ③斜面安定解析(円弧すべり)の理論を理解する。
- ④地域住民への説明会で斜面安定問題をわかり易く説明し、的確な回答ができ、住民の方々に不安感を与えないようにする。

という、4つの到達目標を掲げての講座となりました。



	月日	開講内容(15:00-18:00)
1	9/24	ガイダンス：斜面安定問題についての解説
2	10/8	土の強さ(斜面安定問題と液状化)：土の強さや基本的性質についての解説
3	10/22	一軸圧縮試験、一面せん断試験：土の強さを計る試験の使い方と実習
4	11/5	三軸圧縮試験①：三軸圧縮試験の使い方と実習
5	11/19	三軸圧縮試験②：圧密排水せん断試験の実習
6	12/3	データ整理：三軸圧縮試験から得られる土質物性値の整理
7	12/17	斜面安定問題の考え方：斜面安定解析(円弧すべり計算)の考え方の解説
8	1/14	演習問題：円弧すべり計算の演習問題(コロナウイルス感染拡大のため中止)
9	1/28	日野市内斜面の解析事例①：市内に現存する斜面の解析演習(同上中止)
10	2/18	日野市内斜面の解析事例②：市内に現存する斜面の解析演習(同上中止)

中止日程については検討中です(2/15現在)

◆【理工学部】「ひの市民大学」に、「『明星大学連携コース後期』”エコ”の技術 —SDGs を目指して—」をテーマにオンライン講座を提供 (2021/2/27-3/27 全5回)

昨年度より地域貢献活動の一環として、日野市中央公民館主催「ひの市民大学」に『明星大学連携コース』を開設しています。前回に引き続き、今年度も理工学部総合理工学科の教授陣による、「”エコ”の技術 —SDGs を目指して—」をテーマに5回の講座を提供。講座は全て Zoom によるオンラインで行われます。

	日	時間	担当	テーマ名
第1回	2月27日	13:00~14:30	石田 隆張	「エコ」で見直される水力発電のおはなし
第2回	3月6日	13:00~14:30	伊庭 健二	カーボンニュートラル2050、その道筋と蓄電技術
第3回	3月13日	13:00~14:30	齊藤 剛	石油を使わないエンジン —スターリングエンジン—
第4回	3月20日	13:00~14:30	熊谷 一郎	バブルで地球を救う!? 船舶の抵抗低減技術の最先端
第5回	3月27日	15:00~16:30	宮本 岳史	エコな電車、事故を救いたい

Zoom 配信によるオンライン講座
“エコ”の技術 (全5回)

ひの市民大学 (明星大学連携コース後期) のお知らせ。今年度は「エコ」をテーマに明星大学理工学部の教授陣による講座を提供します。ぜひ、この機会に学んでください。

第1回	2/27 (土)	「エコ」で見直される水力発電のおはなし	明星大学理工学部総合理工学科 教授 石田 隆張 氏
第2回	3/6 (土)	カーボンニュートラル2050、その道筋と蓄電技術	明星大学理工学部総合理工学科 教授 伊庭 健二 氏
第3回	3/13 (土)	石油を使わないエンジン —スターリングエンジン—	明星大学理工学部総合理工学科 教授 齊藤 剛 氏
第4回	3/20 (土)	バブルで地球を救う!? 船舶の抵抗低減技術の最先端	明星大学理工学部総合理工学科 教授 熊谷 一郎 氏
第5回	3/27 (土)	エコな電車、事故を救いたい	明星大学理工学部総合理工学科 教授 宮本 岳史 氏

講義時間 ● 13:00~14:30 (第5回のみ 15:00~16:30)

参加方法 ● オンラインで参加
申込 ● 先着50人 2月3日(水)9:00~5:00の受付
対 象 ● 市内在住・学生・社会人
問合せ ● 中央公民館 042-581-7580

※ ZOOM 操作について、わからない場合はお問合せください。

◆【デザイン学部】府中けやき並木イルミネーションに協力しました (期間 2020/11/11~12/25)



「明星学苑」(明星幼稚園、小学校、中学校・高等学校)が府中市に所在していることから、『府中けやき並木イルミネーション2020』実行委員会より、明星大学のデザイン学部生を対象に「ロゴマーク」のデザインが募集され、1年生内田光世さんの作品が選ばれました。



このイルミネーションイベントは、市のシンボルであるけやき並木通りと、市の玄関口府中駅南口ペDESTリアンデッキ周辺で毎年実施されています。



◆【人文学部】多摩モノレール主催「多摩モノレール×明星大学コラボレーション企画 ~モノレールからことばの贈りもの~第7回五行歌作品募集」に協力しました (表彰日 12/21)

五行歌は、五行で書くこと以外、字数などの制約がない自由な詩歌です。第7回となる今回の募集テーマは「未来に向かって」。

応募者の皆さんは思い思いに、未来への想いや希望を五行で自由に表現されました。

応募総数 3,596 首の中から選定された受賞作品は「中学生以下の部」「一般の部」あわせて計 60 首。明星大学では、人文学部の学生たちが中学生以下の部の応募作品の審査に協力し、明星大学賞として、入賞の 10 作品に表彰状と明星大学オリジナルグッズを贈呈しました。



明星大学賞は文具セット

後援：八王子市・立川市・日野市・東大和市・多摩市

審査協力：五行歌の会・明星大学

また、「一般の部」にて銀賞、銅賞、多摩モノレール賞を本学学生が1名ずつ受賞しました。

受賞作品は、多摩都市モノレール HP にてご覧いただけます。

Pick up：愛好会

「初等教育研究会 だろんこの会」

1964年発足以来56年間続いている、歴史のあるボランティアサークルです。

部員数は約250名、現在府中市・日野市・多摩市・八王子市・世田谷区など15か所で、文化センターや児童館などと協力して子どもたちと一緒に自分たちも楽しめる活動をしています。

「初等教育研究会だろんこの会」は、府中市の児童館や文化センターでの子どもにかかわるボランティア活動が評価され、2020年2月、同市より感謝状をいただきました。また12月には、「一般財団法人学生サポートセンター」の学生ボランティア活動体験レポート募集事業に応募し、優秀レポートとして表彰されました。

今回は、その「初等教育研究会だろんこの会」で2020年10月まで代表を務めた瀧野萌さんにお話を伺いました（非対面インタビュー：2020/12/26）。



府中市からの感謝状を持つ瀧野萌さん（左）

—活動を通してどんなことを感じていますか？

子どもたちに寄り添い、間近で成長を見られるのがこの活動の魅力だと思っているので、地域の方々のお役に立てることや、子どもたちの笑顔を見られることが何よりのやりがいです。自分たちの経験・成長の機会が持てることに感謝し、地域の方々や子どもたちのお力になれるように頑張っています。



「だろんT」：学年ごとにおそろいのTシャツで活動しています。

—「一般財団法人学生サポートセンター」の学生ボランティア活動体験レポート募集応募について

① 優秀レポート表彰おめでとうございます。今のお気持ちをきかせてください。

活動ができない中でも、今までの活動を振り返って書いたレポートを表彰していただいたことをありがたく思います。どんな形であれ、思いのあるこのサークルの役に立てたことも嬉しく思います。コロナ禍で大変なことも多くありますが、少しでも前向きな活動で、「今できること」を探しながらこれからも精進していきます。

② レポートのタイトル「互いに与え・受け取りあう」には、どんな思いが込められていますか？

私達が日頃の活動を積み重ねていく中で、変化していった意識がこの言葉には込められています。ボランティアというのは、「～してあげる」というものだけではなく「～させてもらっている」という面もあると考えます。ボランティアを依頼され、協力することで活動先の力になることもできますが、それと同時に私達も達成感や人と協力することの大切さなど多くのことを得ることができています。このようにボランティア活動とは「互いに与え・受け取りあっている」ものだと気づくことができました。

—新型コロナウイルスの影響で、大学は対面でのボランティア活動を当面停止しています。今後大学生のボランティア活動をどのように考えていますか？

私達のサークルは、対面での活動が主だったので、活動ができない今は正直不安が大きいです。活動先は再開しているところも多く、依頼に応えられないのも残念です。今まで活動先との間に築き上げてきた信頼が、今後活動を再開していく中でつなかりを切らさない理由になることを願うばかりです。

今後、所属する学生も変わり、「だろんこの会」の活動の形を知っている学生も少なくなることが予想されるため、今までの在り方ではボランティア活動ができないかもしれませんが、今まで先輩方が築き上げてきた伝統・活動を切らさないように努力していきたいと考えています。

—読者の皆さんにメッセージをお願いします。

私達の活動を支援してくださっている方々、今まで「だろんこの会」を繋いでくださった先輩方、活動先の方々、そして何より日々共に活動を作り上げてくれている学生に大きな感謝をしています。今後もたくさんのつなかりを大切に、さらに良い活動を作り上げていきます。

「初等教育研究会だろんこの会」は、子どものために・誰かのために・自分のために一生懸命になれる学生がたくさんいます。活動や学生間では多くの刺激があります。大学生活をより良いものにできる団体なので、ぜひ共に活動したい人がいればSNS等にご連絡ください。何学部でも、男女問わずお待ちしております。

【連絡先】

Twitter⇒@doronko_meisei

Instagram⇒@doronko.meisei

瀧野さんありがとうございました。表彰されたレポートは、下記 URL よりお読みいただけます。
<https://www.meisei-u.ac.jp/2020/2020122401.html>



3 勤労奨学生レポート

2020年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の影響を受け、市民活動も制限され、学生が「地域貢献活動」に関わるのが難しくなりました。

そこで今回は、地域交流センター及びボランティアセンターに所属している勤労奨学生6名に依頼した、『私とボランティア』というテーマのレポートを掲載いたしました（出題は7～8月）。学生たちに「地域貢献活動」「ボランティア」について考え、自分たちの言葉で語ってもらうことで、彼らが今どんなことを想い、課題としているのかを、お伝えできればと存じます。

※明星大学独自の勤労奨学生とは、学生に有効な経済支援を行うために、本学の理念である「体験教育」や「実践躬行」を具現化した、学内の実務体験を伴う返還義務のない給付型の制度です。奨学生には大学内でのインターンシップを通じて、社会人としての意識や実務経験を学んでもらうことを目的としています。

教育学部 4年 城彩香

私はこれまで、レクリエーションや小学校での学習支援などのボランティアをしてきました。地域でのボランティアは、子どもからお年寄りまで多くの方と関わることができてとても楽しいです。そして活動する中で、イベントの企画や運営は長い時間をかけて準備することや、多くの人の協力が必要だということを学びました。

私がボランティアをする理由は、人のためになることをしたいからです。子どもたちを笑顔にしたい、勉強がわかった！と思ってもらいたい、身近な地域に何か貢献出来たらいいと思い活動します。

ボランティアは自分が楽しめないと続けられません。興味があるものや得意な分野を活かせる活動を探して取り組んでいます。

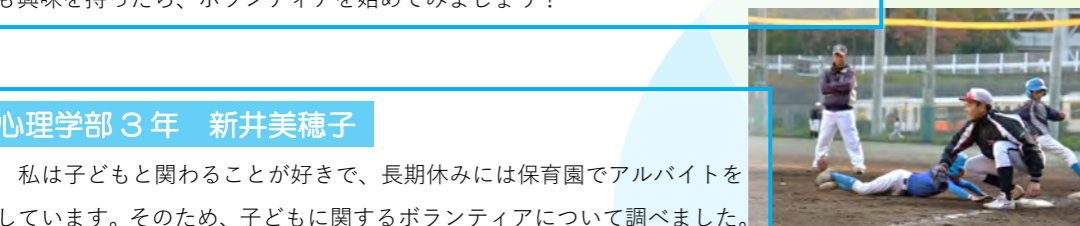
ボランティアを始めたい人は、自分が興味のある分野から取り組んでみることをお勧めします。例えば子どもや教育関係の活動も、遊びや運動、学習支援、居場所づくりなど様々です。その分野で自分に合った活動を見つけたり、新たな発見をしたりもできるはず。思い切って新しいことに挑戦してみることも大きな経験になります。私は文系ですが、あまり得意でないパソコンを使った学習ボランティアにも参加し、私自身も学ぶことができ、良い経験になりました。

ボランティアでの活動や人との関わりは、必ずどこかで役に立つはず。少しでも興味を持ったら、ボランティアを始めてみましょう！

心理学部 3年 新井美穂子

私は子どもと関わるのが好きで、長期休みには保育園でアルバイトをしています。そのため、子どもに関するボランティアについて調べました。キャンプなどの自然体験活動、子ども食堂の調理のサポート、障害のある子どもたちと一緒に活動する学習・スポーツ支援などがありました。少し専門的になると、児童養護施設に訪問して子どもと接するというものもあります。一口に子どもと関わるボランティアといっても内容は多岐に渡っていました。参加したいと感じる活動もあったので、これからボランティアについて積極的に情報を集めたいと思いました。

もう一つ、ボランティアの存在について考えさせられる出来事がありました。九州の豪雨被害です。復旧作業は泥をかき出したり、浸水した家の掃除、瓦礫の撤去をしたりと、とても大変なことだと思いますが、現状はコロナ感染の観点から県内のみでのボランティアで復旧作業を行なっています。感染症が無い時でさえ、時間を要する作業に対し、「人手が足りない」「作業がなかなか進まない」という実際の声をニュースで聞いて、今までたくさんの善意ある人が全国から駆けつけてくれていたという事実を痛感しました。改めてボランティアの存在が被災地にとってどれだけ必要で重要であるかを感じました。



地域交流センター勤労奨学生

教育学部 3年 深野恵利

私がボランティア活動を通して感じたのは、人との繋がりの大切さ、繋がりが広がる楽しさや充実感、自分の可能性の拡大です。

私は大学生になって、明星大学のボランティアセンターがいわき明星大学と共催している「いわき合同ボランティア」の活動に参加しました。「いわき合同ボランティア」では、今でも仲の良い友人と出会うことができ、ボランティア活動自体について考えることに繋がり、それから多様なボランティア活動に参加するようになりました。

高校時代までのボランティアのイメージは、成績や内申、進路のため、また単純に貢献・奉仕活動をして困っている人を助けるというものでした。しかし、「いわき合同ボランティア」を始めとして、教育や特別支援教育に携わるボランティア活動など多様なボランティア活動を通し、ボランティア活動は人と人との繋がりを広げる力があると感じるようになりました。また、それらの繋がりが活かされて、人のためだけではなく、自分の学びに繋がることも感じています。現在私のアルバイト先の1つである、小学校の特別支援学級も特別支援教育に関わるボランティアで繋がった先輩に紹介して頂きました。毎週学びを感じています。

ボランティア活動は、人のため、自分の学びへと繋がり、大学生活を充実させられる1つだと考えます。

『私とボランティア』



教育学部 2年 本橋清花

私は中学生の時、地域で行われるイベントのボランティアに参加したことがあります。参加するまでは、給料が出るわけでも、自分の将来なりたい職業に関係しているわけでもなかったのですが、参加してみると、ただ誘導やごみ回収をしているだけでも関わらず、多くの方々から励ましや感謝の言葉をかけてくださり、朝から夕方まで活動し、体は疲れているはずなのに、終始優しい気持ちで楽しく活動することができました。この経験を通して、感謝されることへの喜びや仕事に対するやりがいを知ることができ、ボランティア活動へのイメージが変わりました。

翌年も同じボランティアがあったので今度は自発的に参加しました。すると、仕事に対するの気持ちや熱意が高まり、お客さんに「楽しかった」と言って貰え、前回より笑顔になってくれた気がしました。

ボランティアは、自分の意志で参加するかどうかで、同じ活動をしていても得られるものが異なると感じました。アルバイトは給料が発生するため、責任感が増すし、決まりが厳しいのに対して、ボランティアは給料が発生せず、決まりもそれほどないため、どうしたら相手のためになるかを常に考えなければなりません。相手を笑顔にすることがボランティア活動の一番の目的だと思います。

教育学部 2年 品川七海

私が最初にボランティアと出会ったのは中学生のときで、近くの幼稚園を訪問し、子どもたちと過ごしました。そこから、老人ホームに行って手遊びをしたり、折り紙をしたりなどのボランティアに参加するうちに、みんなの笑顔が見られることがこんなにも嬉しいことなのだと思うようになりました。

大学生になり、音楽ボランティアサークル Freedom music に所属しました。ここでは、音楽を通してそこにいる人を笑顔にしたい、元気になってもらいたいという気持ちを持って日々メンバーが活動しています。

このサークルでは、「二水会」という活動に参加しています。毎月第2水曜日、大学の近くにある公民館で、近所の高齢者の皆さんと一緒にご飯を食べたり、時には歌を歌ったりします。私はこの空間がとても好きです。なぜなら、ここに来てくれる皆さんがとても素敵な人たちだからです。私たちのことをいつも歓迎してくれて、一緒にいる時間を楽しくしてくれて、また私たちも楽しませて貰っています。色々な場所で経験するのも大切ですが、同じ場所で人間関係を作って活動するボランティアは空気感が違う、素敵な活動だなと思いました。自己満足ではなく、相手が笑顔になってもらえる、楽しい時間を過ごしてもらえるような活動ができればと思います。

ボランティアセンター勤労奨学生



教育学部 2年 湊脇杏実

私のおすすめボランティアは、2種類あります。ひとつは、地域の方との交流ボランティアです。例として、大学近くで開催されている高齢者サロンがあります。地域のお年寄りの方々が団欒をしたり、ものづくりをしたり、ご飯を一緒に食べたりする場所です。このサロンで私の所属サークルは、音楽ボランティアの活動を行っており、音楽を通して地域のお年寄りや交流しています。回数を重ねるごとに、皆さんとの仲が深まり、楽しい時を過ごすことができました。言葉遣い、話す速度など、同世代と話す時には気にしていないことを気にできるようになります。

もう一つは、放課後学習支援ボランティアです。私は教員志望なので、将来に直結する充実した時間を過ごせています。分からないことや不安なことを直接子どもたちから聞けたり、子どもたちが躓きやすい教科・単元を知ることができたりと、勉強になります。私が行っている学校の校長先生は親身に私たちの話を聞いてくださり、教え方の指導をしてくださるなど大変ありがたく感じています。

どちらも人と関わるボランティアです。苦手意識を持つ方も多いと思いますが、人と話すことで得られるものは多いと思います。違う世代の人たちと話をするのは刺激的な体験で、何よりもパワーをもらえます。ボランティアを通して様々なことを学べるのは大切ですが、お互いにとって心地よい場になることが1番だと思います。ぜひ機会があったら、チャレンジしてみてください。



(写真は全て 2019 年度)

ここでは、本年度10月末でインターンシップを修了した城さんの実務体験レポートを紹介します。具体的に仕事をする中で得られるもの、自発的に取り組むことで成長することなど、城さんの成果を報告してくれました。



私は大学の奨学金制度の一つ、勤労奨学生として3年前に地域交流センターに配属されました。はじめは業務を通して人の役に立ちたいと思っていましたが、だんだんと学ぶことも増え、自らが大学周辺の地域をもっと知りたいと思うようになりました。振り返ると、地域交流センターで多くの経験をし、多くの学びを得ることができました。

【日々の活動を通して】

勤労奨学生が大学に届いたポスターを掲示したり、パンフレットを設置したりします。

また、地域交流センター発行の「Newsletter」では、大学周辺



サークル代表へのインタビュー

地域で活動を行うサークル取材しました。記事を作成する際には、多くの人に読んでいただけるよう、わかりやすい文章作りを意識していました。取材は毎回とても緊張しますが、取材先の方も同じだと思い、楽しく会話をすることが必要だと感じました。これはこれから社会に出ても身につけたい技ですね。もっと上手にできるようになりたいと思います。完成した誌面を見るのが毎回楽しみでした！

【星友祭を通して】

地域交流センターの勤労奨学生一番のイベントといえば、明星大学の学園祭「星友祭」での展示物作成です。ここでは日野市、八王子市、あきる野市を中心に多摩地域を自分たちで調べて、展示発表しました。私は他地域出身のため、大学周辺のことはあまり詳しくなかったため、道の駅を訪ねたり、新選組関連施設を巡ったりしました。現地に行って調査をすることでより詳しく知ることができ、私にとって身近な地域になりました。

星友祭当日は、学内外の方にご来場いただき、直接感想を聞くことができたのが一番の喜びです。当日までに多くの時間をかけて準備をしたので、とても達成感を得られました！

私が今まで地域交流センターの勤労奨学生として活動を続けられたのは、多くの方々に支えていただいたからです。改めて感謝申し上げます。

今まで学んだ多くのこと、大学周辺地域の知識はこれからも忘れず、生かしていきます。

そして、卒業後も足を運ぼうと思います。



「星友祭」での多摩地域PR展示物作成の様子

城さん、3年間勤労奨学生として部署業務に携わっていただき、ありがとうございました。教育学部で授業時間がとても多い中、勤労業務に入ることはとても大変なことだったと思います。

1年目から大きなイベントにも参加、学友会サークルへのインタビュー、星友祭では地域のことを詳細に調べて展示物を作成したり、会場の手続きや準備も代表して務めてくれましたね。さらに後輩勤労生の育成まで、本当に多方面で活躍してもらいました。卒業しても是非遊びに来てくださいね。

地域交流センタースタッフ一同

4 オンラインでの地域交流・貢献活動

日付	主催	タイトル（表記のない場合は Zoom 開催）	概要
7/9～ 公開中	教育学部 笠原順路 教授 企画・編集	「Shakespeare in Silver/ 純銀製シェイクスピア劇」(明星大学所蔵) https://kenkyu.hino.meisei-u.ac.jp/vase-sh/	「The Vase of Shakespeare」の図柄を、照応する台座銘板の解説文と結びつけ、世界に示そうとするもので、そこに描かれた舞台上の劇的一瞬を銘板に刻まれたシェイクスピア劇の名セリフとともに鑑賞できる内容になっています。
8/2～9の うち 5日間	人文学部国際 コミュニケーション学科	「明星サマースクールプロジェクト2020」 (8/2,4,6,8,9の5日間)	オンラインの利点を生かし、ジョージア共和国の児童生徒56名が、日本の児童生徒48名と共に英語のクラスに参加したほか、メキシコやイタリア・ルーマニア・英国などから国際ボランティアが参加し、例年以上に国際色豊かになりました。
8/7～23 全9回	COPERU 代表団体：明星 大学	オンラインでコードな大冒険！《プログラミングパーク「CABA2020」オンライン》	明星大学と日野市が中心となり作った『コードなあそび場』。「プログラミングの冒険がはじめてのひと」や「コンピュータを使って何かやってみたいひと」を広く対象としました。
10/5～ 3月中旬	COPERU	経験者/大学生が優しく寄り添う無料オンライン講座「はじめてのプログラミング」	プログラミングに興味のある方たちの学びを止めないことを目的とした、プログラミング初学者対象の、自宅で学べるオンライン無料講座。10/5～12/25、1/18～3月中旬で2度開催しました。

日付	主催	タイトル (表記のない場合は Zoom 開催)	概要
10/24,31	人文学部国際 コミュニケーション学科	明星サマースクールプロジェクト 2020 Round 2 2日間の英語教室	夏に開催した明星サマースクールプロジェクトの第二弾として、明星大学生がイタリアの大学生と一緒に、楽しく分かりやすく英語を教えました。
10/25	心理相談 センター	「産業・労働領域における心理支援-EAP*の現場から-」 *Employee Assistance Program (従業員支援プログラム)	企業におけるストレスチェックや働き方改革が推進されるなか、心理支援がどのように行われているのかについて、現場の最前線で活躍されている高田俊博氏にご講演いただきました。
10/31 ~11/1	星友祭 実行委員会	「第 55 回星友祭」をオンライン開催 (YouTube Live)	明星大学の魅力や、学生会団体紹介など、様々な企画を取り入れた1つの番組として配信しました。



星友祭



ゲストは
千葉雄大
さん

体育館での「トークショー」スタッフ



実行委員によるドミノ作成



芸人さんの
ステージを
待っています

まだかな...



PARTY!!
-夜明けと共に-
第55回 星友祭

総再生回数は
1万2000回超！
ご視聴ありがとうございます。
ございました。



明星大学『星友祭』
マスコットキャラクター ゆうたん



フィナーレまで
見てくれてありがとう

テーマは「PARTY!!-夜明けと共に-」
星友祭という場を通して、少しでもこの長い夜の夜明けを感じてほしい、そしてそれを目にした視聴者の方々とひとつになってこの星友祭を、大きな“PARTY”として盛り上げていきたい、という想いが込められています。

日付	主催	タイトル (表記のない場合は Zoom 開催)	概要
11/28	人文学部国際 コミュニケーション学科	UNHCR WILL2LIVE オンライン難民映画祭 『ランナー 奇跡へのチケット』 明星大学特別先行上映会	国際コミュニケーション学科の科目である「映像翻訳 1A/1B」の講義で映像翻訳の基礎を学んだ学生たちが字幕をつけました。上映会の企画・運営・宣伝も学生が主体となって行い、上映会のゲストとして高橋尚子氏をお招きしました。
12/5,12,19 全3回	デザイン学部	デザイン学部公開講座 『デザインを学びたい社会人のためのオンライン公開講座 DESC』	第1回「未来志向から広がるプロダクト」 第2回「コスチュームからはじまるファッション」 第3回「映画の画面構成からみる映像表現の可能性」
12/20	情報学部	情報学部公開講座 「はじめてのサイバーセキュリティ堅牢化演習」	参加者にオンラインショッピングサイト運営者の立場となっ ていただき、通常の利用者による購買活動を維持しながら、攻撃者 による介入を排除するポイントを一緒に考えました。
1/24~3/31	デザイン部	デザイン学部第4回卒業研究報告展 https://sotsuken.meide.jp	テーマは「仕組みをもっと、“密”にする」。物理的な距離確保が 求められる今/これからの社会だからこそ、ヒト・コト・モノを 「密」接に関係づけ機能させる仕組みを提案します。
2/27~3/27 全5回	理工学部	ひの市民大学	理工学部が、日野市の市民講座に「“エコ”の技術 —SDGsを目 指して—」をテーマにした5回の講座を提供しました。
2/28	発達支援研究 センター	明星大学発達支援研究センター 公開講演会 『LD等や学習に苦戦する子への 適切な学習教材 を選ぶためのつまずきの見方』	学習に困難をもつ子どもに適切な教材選択をするにはどうした らよいか、学習支援の方向性、教材作りの方法等を考えます。

◆明星大学 WEB サイトに、地域交流マップを掲載しています



明星大学は、本学における地域交流活動をマップで紹介するウェブコンテンツとして、このたび「地域交流マップ」を公開いたしました。

本学の地域連携、ボランティア活動の取り組みとその支援体制については2018年4月公益財団法人大学基準協会の評価結果の中でも「長所として特記すべき事項」として言及されておりますが、取り組み内容をより広く発信し、多くの方に知っていただきたいとの思いから、マップの公開に至りました。

本マップには公開時点で計66件の地域交流事例（過去の取り組みを含む）が掲載されており、今後も随時更新予定です。

👉こちらからご覧いただけます！

<https://www.meisei-u.ac.jp/special/re-map/>



編集後記

2020年度は、世界が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の猛威に翻弄された1年でした。

しかし、改めて明星大学の活動を振り返ってみると、そんな中でも、皆が「できること」を探して、地域貢献活動を行っていました。

イギリスの理論物理学者スティーヴン・ホーキングさんは『人生は、できることに集中することであり、できないことを悔やむことではない』と語られましたが、コロナ禍での行動指針にもなると思います。それぞれが、自分の場所で地道に実践していることに改めて気づかされた今号の編集作業でした。



地域交流センターとボランティアセンターのFacebookを統合しました。これからはどちらの情報も、<https://www.facebook.com/meisei.tkc>にて発信してまいります。よろしく願いたします。



◆八王子学園都市大学「いちょう塾」へ講座を提供（令和3年度前期）

明星大学より提供する前期講座を紹介します。興味をお持ちの方は「いちょう塾」にお問い合わせください。

18歳以上の方なら誰でも学ぶことができます（学校教育法に定める大学ではありません）。

講座番号	担当講師	講座名	副題	開講日	回数
4-15	金澤 修	ラテン語を始めてみようⅡ	楽しく学ぶラテン語初歩の初歩	4/3	7回
4-20	鈴木時男	どうしたら本がうまく読めるか？	読書法と読書術	4/8	7回
	渡辺知明				
4-21	齋藤晴恵	シニアのための読み聞かせボランティア入門	自分のための脳力・活カ・美カアップをめざそう	4/9	7回
4-27	金子祥之	『平家物語』の世界を読む	「盛者必衰」の向こう側へ	4/14	7回



発行：明星大学事務局 地域交流センター
住所：191-8506
東京都日野市程久保 2-1-1

電話：042-591-5111（内7160）
042-591-9445（直通）
FAX：042-591-6261
Email：gad-tkc@ml.meisei-u.ac.jp